

# 第七章 仮定法

## レクチャー1

### 仮定法とその特徴。

#### (1) 仮定法とは。

仮定法というのは、まさに仮定の話（つまり現実の逆、或いは反する）を述べる言い方です。下の日本語の例文を見てください。

「私は鳥ではないから、君のところに飛んで行くことは出来ない」 [現実]

この現実を裏返して、つまり仮定的に表現すれば以下のようになりますね。

「もし私が鳥なら、君のところに飛んで行くことが出来るのだが」 [仮定]  
[裏に反する]

このように、仮定法の表現というのは、**現実を裏返したものの言い方で、その言葉の裏に、常にそれに反する現実があるのがその特徴です。**

#### (2) 仮定法の最も大きな特徴。

仮定法においては、if節には必ず「(助)動詞の過去形」もしくは「過去完了形」を用います(つまり「現在形」「未来形」「現在完了形」が使われることはない)。

具体的には、

①現在の(裏に反する)仮定をする場合、仮定法では(if節に)「過去形」を用いる。

②過去の(裏に反する)仮定をする場合、仮定法では(if節に)「過去完了形(had+p.p.)」を用いる。

このように「(文中の)時制と、その表している内容がズれる(現在の内容を述べるのに過去形を用い、過去の内容を述べるのに過去完了形を用いる)」のが、仮定法の最大の特徴と言えます。

(ex) If it rains tomorrow, I will stay home.

もし明日雨なら、私は家にいます

上の英文は、if 節に「現在形」が使われていますね。この時点でこの英文は仮定法ではない、と見極められなくてはなりません。これは直説法で、if 節は単なる「条件」を述べているにすぎないのです。

※直説法とは、あることを事実として述べる時の動詞の形のことを言う。

## 《もう一步深く!!》

### 仮定法はなぜ「現在」のことを述べるのに「過去形」を使うのか？

理由は簡単で、「現実との距離」を感じているからです。たとえば先の例文の「もし私が鳥なら…」。これを身近なこととして感じる人はいないはずです。現実のものでない出来事は、自分のまわりにはない、どこか遠く離れたイメージを感じてしまいますね（「現実離れしている」という表現があることでもわかります）。この「遠く離れた」イメージが、「過去」の持つ「離れた」イメージとピッタリ重なるのです。

「過去時制」で「距離」を表すのは、丁寧な気持ちを表す場合にも使われています。中学校の英語で Will you ~? というより Would you ~? と、will の過去形の would を使った方が「丁寧」な表現になると習いましたね。なぜ過去形を使った方が丁寧な意味になるのでしょうか。それは、「丁寧さ」つまり「相手との距離感」を、「過去」のもつ「離れた」イメージで表そうとしているのです。

そうしてみると、英語の過去形というのは、以下の3つの「距離感」を表すことができるわけです。

- ① 現在との時間的な距離感 ⇒ 「過去」を表す。
- ② 現在の事実との距離感 ⇒ 「(現在の事実に対する)仮定」を表す。
- ③ 人間関係における(相手との)距離感 ⇒ 「丁寧な気持ち」を表す。

仮定法過去（「現在の仮定(もし今～なら)」をする場合の公式）。

「仮定法過去」とは、現在の事実に反する事柄を頭に思い描いて、

「もし(今)～なら、(今)…だろう[できるの・かもしれないの]に」

という、(現在の)仮定、願望を表すものです。現在のことを述べるのに(if節に)過去形を用いるのが特徴です。その基本公式は以下の通り。

If+S<sub>1</sub>+(助)動詞の過去形～, S<sub>2</sub>+助動詞の過去形+V[原形]…  
 「もし(今)～なら」 「…だろうに」

(ex) If I were[was] you, I would not do such a thing.

もし(今)僕が君なら、そんなことはしないだろうに

If he had enough money, he would buy the stock.

もし彼に十分な金があればその株式を買うだろうに

「仮定法過去」の構文に関するポイントをいくつかあげておきましょう。

- ① if節の動詞がbe動詞の場合、主語の人称に関係なく were が用いられる(ただし was を使っても間違いではない)。
- ② 「(主節、つまり ifのついていない方の「S+V」にくる)助動詞の過去形」とは、具体的には would, could, might, should。このうち should がくるとはまれ。
- ③ if節の方にも助動詞の過去形が来ることがあるが、それは、「可能性」を表す could か、「意志」を表す would など(その場合、If節内は could[would…]+V[原形]～となる)。このうち would が入る場合というのは、非常にへりくだったものの言い方で、大学入試などでの出題はまずないといっている。一応それぞれ例文をあげておく。

(ex) If I could take a vacation, I would go to Japan.

もし休暇を取ることができれば、日本に行くだろうに

I would be very grateful, if you **would** do that for me.

もしそれを代わりにしていただけるのでしたら大変光栄なのですが

if 節内に should が用いられることがあるが、これは不確定な未来を仮定する際に用いられる。これについては後述する。

### レクチャー3

仮定法過去完了(「過去の仮定(もしあの時~なら)」をする場合の公式)。

「仮定法過去完了」とは、過去の事実と反する事柄を頭に思い描いて

「もし(あの時)~だったら、(あの時)…したろう[できたの・かもしれないの]に」

「もし(あの時)~だったら、(今)…だろう[できるの・かもしれないの]に」

という、(過去の)仮定、願望を表すものです。過去のことを述べるのに(if 節に)過去完了形を用いるのが特徴です。その基本公式は以下の通り。

If+S <sub>1</sub> + had+p.p.~, 「もし(あの時)~だったら」	① S <sub>2</sub> +助動詞の過去形+have+p.p.... 「(あの時)…だたらうに」
	② S <sub>2</sub> +助動詞の過去形+V【原形】.... 「(今)…だたらうに」

上の公式のように、「仮定法過去完了」は

- ① If 節と主節、共に過去の仮定をする場合
- ② If 節は過去の仮定、主節は現在の仮定をしている場合(つまり「過去+現在の仮定」というミックス型)

の2パターンあることを覚えておきましょう。

(ex) If I **had known** your trouble, I **could have helped** you then.

もし君が困っているのを知っていたなら、その時君を助けてあげられたらうに

If I had not studied hard, I might not attend this school now.

もし一生懸命勉強していなかったなら、今この学校には通っていないかもしれない

## レクチャー4

仮定法未来(「実現可能性の低い未来の仮定」をする場合の公式)。

「仮定法未来」とは、実現可能性の低い未来の事柄の仮定を表すものです。If節に should と、were[was] to を用いる2つの公式があります。それぞれの基本公式は以下の通り。

※最近の文法書では「仮定法未来」という呼び方は、されることが少なくなりました。

(1) 「If+should」型の公式。

If+S <sub>1</sub> +should+V【原形】～, 「もし万一～なら」	S <sub>2</sub> +助動詞の過去形+V【原形】…
	1.命令文 2.S <sub>2</sub> +will【can/ may】+V【原形】…

「If+should」型の最大の特徴は、主節に「命令文」や「will【can/ may】」を用いた文(「直説法」という)が来ることがあるという点です。

(ex) If you should come to the party, she would be very happy.

もし万一君がそのパーティに来てくれれば、彼女はとても喜ぶだろうに

If it should rain tomorrow, I will stay at home.

もし万一明日雨が降れば、僕は家にいます

If he should come to see me, let me know as soon as possible.

もし万一彼が私に会いに来たら、すぐに知らせてください

(2) 「If+were[was] to」型の公式。

If+S<sub>1</sub>+ were[was] to+V [原形]~, S<sub>2</sub>+助動詞の過去形+V [原形]…  
「もし仮に(万一)~なら」 「…だろう」

(ex) If you were to die today, what would you do?  
もし仮に今日死ぬとしたら、君はどうしますか

(3) 「If+should」型と「If+were[was] to」型の用法・意味的な違い。

両者の違いは、(1)の「If+should」型は、「極めて実現の可能性の低い事柄」に関してのみ用いるのに対して、(2)の「If+were to」型は、

①「極めて実現の可能性の低い事柄」 ☞「If+should」型でも表現できる。

(ex) If it were to [=should] rain tomorrow, I would not go there.

もし万一明日雨が降れば、僕はそこに行かないだろう

☞ただし If+should型と違って、主節が直説法になることはない。

主節の動詞は「助動詞の過去形+V [原形]」になる。

②「絶対に起こりえないような事柄」

(ex) If the Sun were to rise in the west, my love would never change.

もし仮に太陽が西から昇っても、ボクの愛は変わらない

③「控えめな丁寧な提案・依頼」

(ex) If you were to move your chair a bit, we all could sit down.

席をもうちょっと動いていただけると、私たち全員が座れるんですが

といったいろいろな場面で使えるという点です(②や③は If+should 型では表現できません)。

ただ大学入試などで、ことさらこの違いが問われることは、あまりありません。強いて言うなら、②(「絶対に起こりえないような事柄」を表す If+were to 型)をおさえておくといいでしょう。

公式の整理。

ここで、仮定法関連の文法問題で瞬時に解答を引き出すための「公式の整理」を試みましょう。

(1) 仮定法においては、if 節には必ず「過去形」もしくは「過去完了形(had+p.p.)」を用いる(つまり(仮定法において)「現在形」「未来形」「現在完了形」が if 節に使われることはない)。

☞ if 節に入りうる助動詞の過去形となると could がほとんど。

また (if 節内では) be 動詞は、主語の人称に関係なく were が好まれる。

具体的には、

① 現在の事実に反する仮定をする場合、仮定法では if 節に「過去形」を、主節には「助動詞の過去形+V[原形]」を用いる。

② 過去の事実に反する仮定をする場合、仮定法では if 節に「過去完了形(had+p.p.)」を、主節には「助動詞の過去形+have+p.p.」を用いる。

☞ 「主節」とは、接続詞(if)のついていない方の「S+V」のこと。

③ (実現可能性の低い) 未来の仮定をする場合、仮定法では if 節に

1. should(+V[原形])、もしくは were to(+V[原形])を用いる。

2. どちらも主節には「助動詞の過去形+V[原形]」を用いるが、If+should 型の場合、(主節に)「命令文」「will[may/can]」も来れる。

☞ ちなみに、主節に will[can,may] が使われたり、命令文が来たりするような仮定法は If+should 型だけ。

(2) 仮定法で、if 節に「(助動詞の過去形)があつたら、主節は必ず「助動詞の過去形+V[原形]～」になる。

☞ 唯一の例外は「If+should」型。

(3) 仮定法で、if 節に「had+p.p.～」があつたら、主節は2通りの可能性がある。  
つまり

① 主節の方も過去の仮定をする → 「助動詞の過去形+have+p.p.～」を使う。

②主節の方は現在の仮定をする → 「助動詞の過去形+V[原形]～」を使う。

會どちらにしても主節には助動詞の過去形が来る！

(4)主節に「助動詞の過去形+have+p.p.～」があったら if 節は「had+p.p.」になる。

會例外として以下のようなものがある。

(ex) If I were a bird, I could have flown to you.

もし私が鳥ならば、(あの時)あなたのところに飛んで行けたらうに

「昔」も「今」も「私≠鳥」である事実が変わりはないので

If I had been a bird

とはあまり言わない。ただ、このパターンが大学入試などで問われることはほとんどないので、あまり心配しなくていい。

## レクチャー6

### 仮定法の(条件節における) if の省略。

(1)基本ルール。

仮定法の if は省略することもできます。ただ、if が省略されると、条件節は「疑問文と同じ語順」になります。以下にその例をあげてみました。

if が省かれると

If I were a bird,	→	Were I a bird,
If I had had money,	→	Had I had money,
If it should rain,	→	Should it rain,
If I were to die now,	→	Were I to die now,

(ex) Had the war ended at that time, many people in the town would have been saved.

もしその戦争がその時点で終わっていたなら、その町の多くの人々が救わ



れていただろう

=If the war had ended at that time, ~.

Should anything urgent happen, call us soon.

もし万一緊急なことが起きたら、すぐに私どもに電話してください

=If anything urgent should happen, ~.

## (2)注意すべきポイント。

- ① 「ifが省略されると、条件節は疑問文と同じ語順になる」というルールは、  
if節内の動詞が were, had+p.p., should+V[願形] の場合でのみ、起こりえます。  
罠まれにその他の助動詞(could など)を含む条件節で倒置が起きることもある。  
つまり、If I were you, を Were I you, とは言えても、If I ate this, が Did I ate  
this, となることはありません。
- ② if節内に had+p.p. の否定文が来る場合、(ifが省略されると)

Had S not p.p.~,

という語順になるので注意が必要です。

つまり、If I had not gone there は、(ifが省略されると) Had I not gone there  
となるのであり、Had not I gone there とはなりません。

## レクチャー7

### 仮定法を用いた慣用表現。

仮定法の基本が理解できたら、次はその仮定法を用いた慣用表現を覚えましょう。  
どれも大学入試などでは、頻出の表現ばかりです。

#### (1) but for A

but for A は「もしAがなければ[なかったならば]」という意味です。  
without A で言い換えることができます。

(ex) But for your help, I could not manage to do this.

=Without your help

もしあなたの助けがなければ、これをやり遂げることはできないだろう

But for your advice, I could not have succeeded in my life.

=Without your advice

もしあなたの助言がなかったならば、私は成功できなかったことだろう

but for Aが「もし(今)Aがなければ」なのか、「もし(あの時)Aがなかったならば」なのかは、主節の形と意味で判断することになります。

そしてこの but for A は if 節で書き換えることができます。その場合、「もし(今)Aがなければ」と、「もし(あの時)Aがなかったならば」は、それぞれ動詞の形を変えて表現しなければなりません。以下がその公式です。

① 「もし(今)Aがなければ」 = if it were not for A  
= were it not for A

② 「もし(あの時)Aがなかったならば」 = if it had not been for A  
= had it not been for A

(ex) But for you, our plan wouldn't succeed.

=Without you

=If it were not for you

=Were it not for you

君がいなければ、我々の計画は成功しないだろう

But for your timely hit, the team could not have won.

=Without your timely hit

=If it had not been for your timely hit

=Had it not been for your timely hit

君のタイムリーヒットがなかったら、そのチームは勝てなかっただろう

ちなみに「もし(今)Aがあれば」「もし(あの時)Aがあったならば」は、with A で表します。

(ex) With a little more patience<sup>[忍耐力]</sup>, he would have succeeded.

=If he had had a little more patience

=If he had been a little more patient ☞ 形容詞形の patient を使えば、動詞はbe動詞を用いることになる。

もう少しの忍耐力があったなら、彼は成功していただろうに

(2) ㊦ wish S+V[仮定法]～

㊦ wish S+V～は「～ならなあ(と思う)」という、実現不可能(又は満たされない)願望を表すのに用いる表現です。その公式は以下の通り。

㊦ wish {  
① S+V[(助)動詞の過去形] 「もし(今)～ならなあ」  
② S+V[過去完了形(had+p.p.)] 「もし(あの時)～だったらなあ」  
S+V[could+have+p.p.] [できていたら]

㊦「助動詞+have+p.p.」となる場合、could have+p.p.が最も多い。  
would have+p.p.で「～だったらよかった(のになあ)」となることがある。

(ex) I wish I knew her address.

彼女の住所がわかっていたらなあ

Sue wishes she could be a pianist.

スーはピアニストになれたらいいなあと思っている

㊦ could が入れば、「～できる(ならなあ)」となる。

I wish it would stop raining.

雨が(どうもやみそうにないが)やめばよいのになあ

I wish you would stop smoking.

君が禁煙してくれればいいのだがなあ

㊦ would が入れば、「～してくれれば[であれば]いい(のになあ)」といった、現状への不満や遺憾の気持が含まれる(通例期待感の薄い願望を表す)。

I wish I had treated the boy more kindly.

その少年をもっと親切に扱っておけばよかったなあ

I wish I could have met you at the station.

君を駅まで出迎えられればよかったのだがなあ

これとほぼ同じ意味になるものとして、以下のような表現があります。

① If only S+V～

㊦ I wish S+V～. の書き換え[言い換え]として

② Would that S+V～

最頻出!

③Wish to God S+V～

④How I wish S+V～ ☞ I wish S+V～. が how[dearly] で強調された  
=I dearly wish S+V～ 構文。「本当に～なあ」などと訳す。

(ex) If only I had known his trouble.

彼のトラブルを知っていさえしたら

=I wish I had known his trouble.

また⑤ wish S+V[仮定法]～は、「I'm sorry (that) S+V～: Sが～[でない]のは残念だ」という直説法(つまり実際の話をありのままに述べる言い方)を使って書き換えることができます。ただその場合は、仮定法と異なり、**現在の内容は現在時制で、過去の内容は過去時制で書かなくてはなりません。**

「I'm sorry」の部分を「It's a pity」、「What a pity it is」を用いて表現することもできます。

(ex) I wish I **were** in your position.

=I'm sorry (that) I **am not** in your position. ☞直説法で書き換えると**現在時制**になる。

私があなたの立場ならなあ

I wish you **had helped** me then.

=I'm sorry (that) you **didn't** help me then. ☞直説法で書き換えると**過去時制**になる。

君があの時僕を助けていてくれたらなあ

(3) as if[though] S+V[仮定法]～

as if[though] S+V～は、「まるで～かのように」という意味を表します。  
その公式は以下の通り。

as if[though] { ①S+V [過去形]～ 「まるで(今)～である[する]かのように」  
②S+V [過去完了形(had+p.p.)]～  
「まるで(あの時)～だった[した]かのように」

(ex) She behaves as if[though] she **were** a queen.

彼女はまるで女王様のように振る舞う

He talks as if[though] he **had been** a baseball player.

彼はまるで野球選手であったかのように話す

この as if[though] S+V～について、いくつか注意点をあげておきましょう。

- ① as if の後ろが「仮定法」でない(つまり直説法になっている)場合がある。  
look, seem が as if の前にくるとそうなる場合が多い。その場合、「(実際に)まるで~のように」というニュアンスになります(つまり「仮定」ではなくなる)。

(ex) It looks as if it is going to rain.  
(本当に)雨が降りそうだ

- ② as if の後ろの「主語+be動詞」が省略されてしまうことがある。

(ex) The girl trembled as if (she had been) in a thunderstorm.  
その少女は雷雨にあつたみたいに震えていた

- ③ as if to do [原形]~ という形もある。「まるで~するかのように」と訳す。

(ex) She shook his head as if to say no.  
彼女はあたかもダメだと言わんばかりに首を横に振った

#### (4) would rather S+V [仮定法]~

would rather S+V~ で、「(むしろ)Sに~してほしい」という意味を表します。  
その公式は以下の通り。

would rather	{	① S+V [過去形]~ 「(むしろ)Sに~してほしい」
		② S+V [過去完了形(had+p.p.)]~

① 會現在・未来(の事柄)に対する願望を表す。  
 「(むしろ)Sに~してほしかった」  
 ② 會過去(の事柄)に対する願望を表す。

(ex) I would rather you came next weekend.

来週末、家に来てほしいんですが

I would rather you hadn't told him such a story.

そんな話は彼にしてほしくなかったなあ[しないでほしかった]

#### (5) It is (high,about) time S+V[仮定法]～

It is time S+V～で、「～する(べき)頃だ」という意味を表します。  
この構文の特徴は、S+V～の「V」には必ず「過去形」が来る点です。また、It is と time の間に about や high が割り込むことがあります。それぞれの意味の違いは以下の通りです。

- ① about が入れば「もうそろそろ」という意味が加わる。
- ② high が入れば「とっくに」と、不満を含意する意味が加わる。

(ex) It is high time you went to bed.

もうとっくに寝る時間ですよ

It is about time I settled down.

僕もそろそろ身を固めてもいい時期だな

#### (6) as it were

as it were は「いわば」という意味です。so to speak で言い換えられます。

(ex) He is, as it were, a walking dictionary.

彼はいわば歩く辞書だ

### レクチャー8

#### 仮定法と時制(の一致)。

##### (1) 「時制の一致」というルール。

まず「時制の一致」ってなんのことかわかりますか？ 簡単にいうと、これは、

「主節の動詞が過去時制になったりすると、従属節内の動詞の時制もそれに従って、同じように時制が一つ昔にずれる」

というルールです。たとえば

I think that he is wrong.

この英文の主節の動詞、think が(過去時制の) thought に変わると、that 節内の is も(同じく過去時制の)was になるのです。

→ I thought that he was wrong.

しかし、このルールが適用されない場合というのがいくつかあって、その1つが「仮定法」なのです。つまり仮定法は「時制の一致の例外」なのです。

## (2)仮定法は「時制の一致の例外」。

でもそれって具体的にどういうことを指しているのでしょうか。詳しく説明しましょう。

たとえば

⑤ wish (that) S+V[仮定法]～ .

という構文がありますね。「～ならなあ」と、(実現不可能な)願望を表す表現です。主節の動詞の wish は直説法。従属節内の動詞が仮定法になります。

(ex) I wish it would stop raining.

雨がやんでくれたらなあ

I wish I could go with you today.

今日あなたと一緒にいけるといいんですが

仮定法が時制の一致の例外というのは、この I wish の構文のような、

- ①主節の動詞が直説法
- ②従属節内の動詞が仮定法

である場合、主節の動詞(wish)の時制に関係なく、

- ①従属節内の(動詞の)過去形は、主節の動詞の表す時と(時制が)同時であることを表す
- ②従属節内の(動詞の)過去完了形は、主節の動詞の表す時より(時制が)一つ昔である[古い]ことを表す

ということなのです。以下の例文でそれを説明しましょう。

① I wish I had my room.

私は(今)自分の部屋があればなあ(と今思う)

② I wished I **had** my room.

私は(今)自分の部屋があればなあ(とその時思った)

この①と②例文の I had my room は(had は過去形ですから)、どちらも主節の時と同時点の内容を表しているのです。つまり①は、(主節のwishが現在時制なので)「(今)自分の部屋があればなあ」と、(今)現在の同時点でそう思っているのであり、②は、(主節のwishが過去時制なので)「(今)自分の部屋があればなあ」と、過去のその同時点でそう思った、ということなのです。

③ I wish I **had had** my room then.

私はあの時自分の部屋があったらなあ(と思う)

④ I wished I **had had** my room then.

私はあの時自分の部屋があったらなあ(と思った)

③と④の場合、例文の I had had my room は(had had は過去完了形なので)どちらも主節の時よりも1つ前(昔)の内容を表しているのです。つまり③は、(主節の wish が現在時制なので)「(過去のあの時)自分の部屋があったらなあ」と、(今)現在思っているのであり、④は、(主節の wish が過去時制なので)「(それより更に昔のあの時に)自分の部屋があったらなあ」と、過去のその時点で思ったということなのです。

この「仮定法は時制の一致の例外」というルールは、wish を用いた構文以外でも起こり得ます。

よくこんな質問をする人がいます。

「先生、仮定法って、現在のこと(内容)は過去形で、過去のこと(内容)は過去完了形で表すんですね。なら下の英文は、どうして過去の内容のはずなのに(過去形が正解で)、過去完了形では正解にならないんですか？」

Nancy felt as if she **were** [×had been] in a dream.

ナンシーは、まるで夢を見ているような気がした

このような質問をする人は、上記の仮定法のルールがわかっていないのですね。わかっていれば簡単です。「(あたかも)夢を見ている」ようなその状況と「(そのように)ナンシーが感じた」というのが、過去のその同時点で起こっているからなのです。その場合は過去形で表すんですヨネ(^-^)



If 節のない仮定法。

A close friend would not say such a thing to you.

この英文、if 節が見当たりませんが、助動詞の過去形を使っている点から、仮定法ではないかと判断できます(もちろん would には「過去の習慣」や「過去の意志」を表す用法もあるが、そう考えて訳しても意味不明になってしまう)。

この英文は、主語になっている名詞(a close friend)が、if 節の代わりをしているのです。つまりこの英文の直訳は、「親友が君にそんなことを言いはしないだろう」ですが、「もし(彼[彼女]が)親友なら、君にそんなことを言いはしないだろう」と表現し直すことが可能です。

= If he[she] were a close friend, he[she] would not say such a thing to you.

したがって英文中において、if 節は見当たらないけれど

- ①現在の内容を述べている中に、突然「助動詞の過去形+V[願]～」が現れた
- ②過去の内容を述べている中に、突然「助動詞の過去形+have+p.p.～」が現れた

ら、仮定法ではと判断し、if 節にあたる内容が、文中のどこかにもぐり込んでいると考えてみるとよいでしょう。そして、if 節の代用をしていると思われる語句を見つけたら、それを和訳の際には if 節のように訳出するといふ訳になるのです。

以下に if 節以外の語句が、if 節の代わりをしている様々な例をあげてみましょう。

(1)「名詞(句)」が if 節の代用をしている例。

①「主語」

(ex) It was so silent there that a pin drop might have been heard.

とてもそこは静かだったので、ピンが一本落ちてても(でも落ちたら)聞こえたかもしれないくらいだった

②「(比較級の付いた)名詞句」

④「(比較級の付いた)名詞句+and S+V[仮法]～」の構造で、名詞(句)部分が if 節の代用をする。and は省略され、「名詞, S+V～」という形になることもある。

(ex) A few more steps and he would have stumbled on the root.

もしあと2、3歩歩いていたら、彼は木の根につまずいていたことだろう

(2) 「副詞(句)」が if 節の代用をしている例。

① otherwise

(ex) Mr. Smith is very rich; otherwise he could not buy such an expensive car.

スミス氏は大変な金持ちだ。さもなければそんな高価な車を買えないだろう

② 「不定詞句」

(ex) To hear him talk, you might think of him as a leader of us.

もし彼が話すのを聞けば、君はひょっとしたら彼を我々のリーダーと思うかもしれない

會不定詞が「もし～なら」と、条件[仮定]の意味を表す場合の見極めは、不定詞がこの意味になる場合、主節に助動詞の過去形や will/may/can などの、強制力の弱い助動詞が来ることが多い。

③ 「前置詞+名詞」

(ex) What would you do in my place?

もし私の立場なら、あなたはどうするだろうか

With a little more care, you wouldn't have made such a silly mistake.

もう少し注意していたら、君はこんなばかな間違いはしなかったろうに

④ 「分詞句[分詞構文]」

(ex) Born in better times, he could have become a great teacher.

もしもっと良い時代に生まれていたら、彼は偉大な教師になっていただろう

Happening in a big city, the accident would have caused a disaster.

大都市で起こっていたら、その事故は惨事を引き起こしていただろう

## ⑤その他

(ex) A hundred years ago, no one could have imagined the changes which were caused by the computer.

百年前だったら、誰もコンピューターによってもたらされた変化を想像できなかっただろう

### (3) 「形容詞節【関係詞節】」が if 節の代用をしている例。

(ex) A computer which[that] broke[breaks] down every other day would be of no use.

一日おきに故障するようなパソコンなら、役には立たないだろう

A CEO whose judgment was[is] bad would get his company into difficulties.

社長の判断が誤ると、その会社は窮地に陥るものだろう